

類型	短期集中通所サービス（集団型） ～元気!いきいき!!教室 はつらっコース～	短期集中通所サービス（個別型） ～元気!いきいき!!教室 自分らしくコース～
事業主体	事業者	事業者
対象者	事業対象者、要支援者のうち、以下のよう なケース ・体力の改善に向けた支援が必要なケース ・健康管理の維持・改善が必要なケース ・ADL や IADL の改善に向けた支援が必要 なケース	事業対象者、要支援者のうち、 <u>集団型が困難な</u> 以 下のようなケース ・体力の改善に向けた支援が必要なケース ・健康管理の維持・改善が必要なケース ・ADL や IADL の改善に向けた支援が必要 なケ ース
サービス 内容	日常生活に支障のある生活行為を改善する ために、運動、栄養、口腔、認知症、うつ 予防、ADL/IADL の改善プログラム	日常生活に支障のある生活行為を改善するた めに、 <u>利用者の個別性に</u> 応じて、下記のプログラム を実施 ・運動器の機能向上 ・栄養改善 ・口腔機能の向上 ・認知機能の低下予防・支援 ・うつ予防・支援 ・ADL/IADL の改善 プログラム内容は市から指定
提供頻度	1クール 12回（週 1回×3 か月間）	1クール 12回（週 1回×3 か月間）
送迎	無	無
実施場所	指定場所（各区 1箇所程度・全 11 圏域）	指定場所（各区 1箇所程度・全 11 圏域）
実施方法	委託	委託
基準	・スタッフ 3名他、専門職配置 ・個別型と同日実施 ・2時間程度 25名受け入れ	・スタッフ 2名他、専門職配置 ・集団型と同日実施 ・1時間程度 10名受け入れ
利用者負担	200円（資料代）	200円（資料代）
支払方法	事業者へ直接支払	事業者へ直接支払
限度額管理	無	無

## 1. 事業目的

本サービスは、事業対象者・要支援者に対して、短期集中的（3か月）に専門職による「神戸市オリジナル介護予防プログラム」を提供することにより、高齢者が、心身機能・生活機能を改善・向上させ、社会参加を促進することを目的として実施する。

また、サービス終了後も、介護予防の取り組みが継続して行え、地域でいつまでも自立した生活を送れることができるよう支援する。

## 2. 対象者（例）

（地域で把握された介護予防活動が必要な方）

- ・閉じこもり傾向で、外出機会の機会が必要な方
  - ・なんらかの生活機能の低下のみられる方で、介護予防の意欲がある方 等
- （すでに要支援認定をお持ちの方）
- ・要支援1相当の方でデイサービスから卒業を目指せる状態像の方
  - ・福祉用具貸与や訪問介護サービスを利用中で下肢筋力向上が望ましい方 等

## 3. 参加者（平成29年10月1日現在）

集団型 2～15名 合計71名 個別型 0～3名 合計14名

## 4. 課題及び現在の対応について

### ①対象者について

- ・募集人数に対して参加人数が少ない。
  - ・ケアマネジメントを行うあんしんすこやかセンターが対象者のイメージをもてておらず、対象者の選定に苦慮している。
  - ・本事業のPRに苦慮している。（介護保険サービスであるため、必要な方に参加いただきたい）
- 介護保険課より、各区あんしんすこやかセンター連絡会で順次説明や各あんしんすこやかセンターに電話連絡を行っている。また、センター職員にサービス見学をしてもらっている。

### ②プログラムについて

- ・集団型については、介護予防事業として3年間実績があるため、ノウハウや内容、効果についても実証できているが、個別型については、確立できていない。
- 9月29日事業者研修会を実施。事業者より現在の状況を確認。
- 自習の時間も想定し、最大10名の受け入れを予定しているが、個別対応が必要な方が参加しているため、マンツーマンでないと、実施できない。現在のところは対応できている。
- 介護予防事業で参加した方を再度フォローアップとして体力測定を行った。（モデル事業5区実施）
- 体力やその後の運動習慣について検証中。

### ③事業者について

- ・プロポーザルにて5社に受託。それぞれのノウハウを活用して実施中。介護保険課の保健師等が巡回し、実施状況などを確認、助言している。体力測定の方法等に違いがあり、全市的な効果測定に影響あり。
- 9月29日事業者研修会を実施。細かな点も統一、確認を行った。
- 今後も定期的な研修会が必要。また、来年度の公募は早期に行う予定。

## 5. 今後の課題

### ①対象者について

- ・サービスが必要な方へのサービスの周知方法と関係者の自立支援に向けた考え方の共通認識。  
→フレイルチェック（65歳）により、介護予防の取り組みが必要な方があんしんすこやかセンターに相談来た場合、アセスメントを行い、積極的に案内する。
- ・今後案内パンフレットを再作成し、居宅介護支援事業所や介護保険事業者にPRする。  
(事業者より提案があり、サービスにつながった事例がある)

### ②プログラムについて

- ・サービス提供期間や頻度、定員についても、効果検証を行いながら、見直しを行っていく必要がある。

### ③事業者について

受託事業所のサービスの均一化に向けた取り組み。

### ④その他

- ・サービス終了後は、自身で運動をしていただいたり、地域で自主活動に参加してもらっている。  
(実際にサービス参加された方で自主グループを結成し、継続して運動が取り組んでいる。)  
しかし、その後のサービスの受け皿が必要な方もいるのではないかと。(地域拠点型一般介護予防事業は75歳以上の女性の参加が多い。)
- ・参加者が少ない要因として、各区1ヶ所のため、案内しても通えない参加者がいる。